

ご存じですか！文化財

74

「明治天皇行幸記念碑」



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



所在地 旗井地内

日本の鉄道は、汽笛一声新橋の東海道線に続き、上野―高崎間が明治17(1884)年6月に開通し、東北本線の建設が計画されましたが、課題は高崎線のどこで分岐させるかでした。当時の鉄道局長官は、大宮案と熊谷案で費用期間などを検討し、大宮分岐案で起工すべき旨を日本鉄道会社に通達しました。明治18年に大宮・蓮田・久喜・栗橋停車場が開設され、同年、宇都宮まで開通しました。

しかし、利根川を渡る鉄橋が未完成のため、列車は栗橋止まりで、乗客は伝馬船で利根川

を渡り、中田仮停車場で乗り継ぎました。鉄橋は明治19年に完成しました。設計は英国人のポータルによるもので、当時国内最長の約462メートルあります。明治天皇は、同年7月9日の竣工式に出席し、徒歩で鉄橋を渡り、船からもご覧になりました。また、八坂神社の神輿を中州に船で運び込み、水泳大会では鉄橋から川に飛び込む余興をご覧になりました。

明治天皇行幸記念碑は、この天皇のご訪問を記念して、東村青年団が昭和6(1931)年11月に建立したもので、天皇ご訪問の記憶や鉄道の歴史、東村青年団の至誠を後世に伝える貴重な資料といえるでしょう。



紹介者 小沼 良市さん(旗井)